

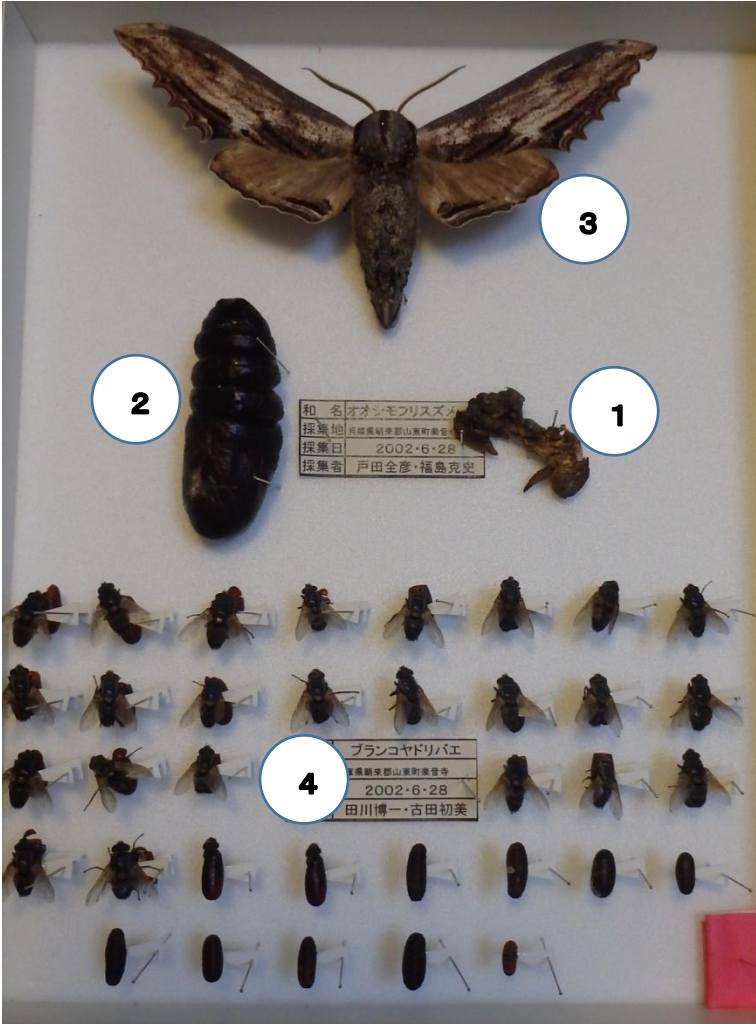
コラム

編集・発行：金浦区自治会

発行日：2022. 4. 9

金浦自然との共生シリーズ⑮

文責：波多野 哲哉



ある日、楽音寺の弁天池を掃除していた職員が超巨大なイモムシを見つけて、僕にくれました。サクラの木にいたということは、おそらくオオシモフリスズメだと確信し、小さな昆虫ケースに入れて飼育し始めました。

ほどなく13cmほどの幼虫は、脱皮し(資料①)、超巨大なサナギになりました。(資料②)

順調に変態をしてくれたことで、ほっと一安心。次は成虫（蛾）が出てくるのは、来年の3月末だろうということで、職場の机の足元において、たまに観察していました。(成虫予想は資料③)

さて、3週間ほどしたある日、足元で何やらブンブン羽音がします。何だろうと思ってケースをのぞいてビックリ！！！！

なんと、ケースの中にたくさんのハエが・・・Σ(￣ロ￣lll)がっ (資料④)

そう、この個体は、おそらく幼虫の段階で寄生バエに寄生されていたのです。

がっかりしましたが、昆虫ケース内ですべて完結されたので、このハエをすべて採集することが出来ました。サナギ内で、寄生バエが無事にサナギ化できたのは35個体。内、羽化して成虫になれたのは24個体。脱皮途中で力尽きたのは2個体。サナギのまま力尽きたのは9個体。ということは、成虫になれたのは約70%。脱皮不全で死亡したのは約5%。羽化不全（サナギのまま死亡）は約25%。たまたまですが、貴重なデータをとることに成功しました。寄生したものの、100%成虫になれないという厳しい現実が分かりました。「寄生」というと「楽でいいなあ～」と思いますが、意外とリスクも高いことが分かります。なんでも楽すればそれにこしたことがない、と思いがちですが、どんなことにもリスクはあることを学ぶことが出来ました。